

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	物品貸し出しや講座開催等、地域貢献に向けてさまざまな取り組みを行っている
	内容	施設の機能や専門性を地域に提供すること等により、地域貢献に取り組んでいる。具体的には、災害時福祉避難所設置協定を市と締結して、地域住民の避難場所として施設を開放することや車イスの貸し出すようにしている。また、昨年度から認知症サポーター養成講座を実施しており、広報誌で開催案内をしている。さらに、法人の独自事業である生活相談所と連携し、生活困窮者支援に取り組むとともに、施設退所者や地域の生活困窮者に対する一時入所事業や通所・訪問事業を実施する等、専門性を広く地域に向けて還元している。
2	タイトル	利用者の自立支援に向けた取り組みや運営に参画するしくみを取り入れている
	内容	施設では利用者が自立した生活を営むためにさまざまな機会を用意している。例えば、施設内外で一定期間、単身生活を疑似体験する他、日常の生活場面でも利用者の嗜好や生活習慣を尊重して職員が適宜、様子を見守りながら支援にあたっている。また、給食ミーティングや事業計画会議等、利用者が施設運営に参画するしくみを複数用意し、職員との率直な意見交換をしながら意向を反映した運営を目指して取り組んでいる。
3	タイトル	利用者が豊かな地域生活を送ることができるように地域資源の活用に努めている
	内容	地域ネットワークを広げていくために、新たに地域に存在する約25の関係団体などとの連絡会を発足し、それぞれの行事を集約してリスト化する等、相互に連携を図りながら利用者が豊かな地域生活を送ることができるように取り組んでいる。また、日常的に地域に出かける利用者以外にも、地域の喫茶店に出かけたり、買い物外出を計画的に実施する等、地域資源の活用に努めている。さらに、各フロアの利用者用掲示板には地域のイベント情報を数多く掲示することで、利用者が関心のあるイベント情報を知り、自主的に参加できるように努めている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	職員の利用者へのサービスマナー向上を目指して一層取り組むことを期待したい
	内容	施設全体で利用者へのサービスマナー向上に向けて、各フロアミーティングで言葉遣いについて確認したり、「困っていることや気になること」等を毎月職員会議で報告している。しかし、今回の利用者調査結果からは一部職員の言葉遣いや利用者の尊厳に触れるような言い方等について、改善を求める声が聞かれる。施設としてもミーティングで話し合った気づきを実践につなげることを課題と認識しているので、言葉遣いを中心にサービス向上に向けて一層取り組むことを期待したい。
2	タイトル	事業継続計画(BCP)に基づく訓練を実施して計画の検証を行い、さらに実効性のある計画となるよう見直すことを期待したい
	内容	施設では、同建物内に併設されている事業所と合同で日中・夜間を想定した消防訓練を実施したり、応援協定に基づき、近隣施設・自治会と年1回合同訓練を実施して協力体制の確認をしている。また、地震等の災害発生時においてサービスを継続して提供できるよう事業継続計画(BCP)を整備し、災害発生時の初動対応から復旧対応、利用者対応、伝言ダイヤルの利用方法等が明示されている。なお、利用者への災害時の活動内容を説明したり、体験型訓練の必要性を感じているので、訓練を通じて計画の検証とさらに実効性を高めることを期待したい。
3	タイトル	利用者が自ら健康管理できるように、健康診断結果の伝達や、専門職等が健康相談にのる機会の充実が望まれる
	内容	施設では、個別支援計画書を作成する際や日常の支援場面において、できる限り自立して行動できる領域を模索しながら支援を進めている。利用者自身についても、施設内の廊下を歩いたりリハビリに取り組む等、体力回復や健康増進への意識を高く持ちながら生活している様子が見える。なお、定期健康診断を年2回実施しているが、その結果をすべての利用者に伝えていない状況が続いている点は改善課題である。今後は、利用者が自ら健康管理できるように結果を伝達するとともに、専門職等が健康相談にのる機会を充実させていくことが望まれる。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	施設の目指すことをよりわかりやすくした「さつきポリシー」「さつきイズム」を作成し、職員の判断基準として意識統一と共有を図っている
	内容	法人理念、倫理綱領、行動規範、施設の基本方針等を実現するため、虐待防止委員会で見直しを進めるガイドラインと連動して、利用者支援や日々の業務における判断基準として「さつきイズム」を作成している。職員全員が目指すことを議論し、共有化するための指針としている。その中では利用者の尊厳を守ることを最も重要視しており、その実践として虐待防止委員会を中心に虐待防止キャンペーンを展開している。利用者の自立心の支援等10項目を名札裏に入れて職員が携行し、サービス会議等で判断基準として思い起こすなど浸透が図られている。
2	タイトル	計画的な改修や共有スペースの確保等、利用者の生活の快適性や居心地の良さに配慮した取り組みを進めている
	内容	快適な環境で利用者が生活できるように、居室の木製ベッドを段階的にギャッジベッド・クランクベッドに交換したり、トイレや洗濯場を修繕して使いやすくしている。また、複数の談話室や玄関先のソファ、グラウンドのベンチ等、利用者が相互交流したり一人でくつろいで過ごせる居場所を提供している。さらに、施設全体の清潔性の保持や利用者がどの職員にも気軽に話しやすい雰囲気づくりにも努めており、快適性や居心地の良さに関する利用者の満足度が高まっていることが利用者調査結果からもうかがえる。
3	タイトル	利用者一人ひとりの意向に基づいた支援や行事開催、食事提供に努めている他、社会に向けてもその姿勢を広く情報発信している
	内容	利用者一人ひとりに適した支援を目指して、個別支援計画書を策定する際の個別面談や利用者が集まる定例会、懇談会、ミーティング、意見箱等、意向を直接把握する機会を用意しており、それぞれ寄せられた意向をクラブ活動や行事、作業、食事の内容等に反映するように努めている。また、事業計画会議に利用者代表が参加する機会も定着している他、施設に寄せられた苦情およびその後の対応を半期毎に「苦情受付状況報告」として法人ホームページ上で公表する等、利用者本位の運営を目指す施設の姿勢を広く示している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	大規模災害や感染症に備え、事業継続計画のさらなる充実及びそれに基づく訓練により実効性の検証する等有効性の高い計画を策定されたい
	内容	大災害時等における事業継続計画の充実が課題となっている。現状は簡便なものであり、実効性のある計画の策定が必要と認識している。平常時における対応、災害発生時の対応、発生後の早期事業復旧等時系列にリスクと対策を検討し、行政が公表しているガイドラインを参考にするなど、計画の策定が望まれる。利用者が生活する施設であることから、災害発生時の避難誘導はもとより、早急に復旧するための具体的な計画策定が記載される。さらに、計画に基づき訓練を通じて実効性を検証することで有効性の高い計画となるよう取り組みが望まれる。
2	タイトル	サービス向上へのさらなる人材育成強化を図るため、各職員のキャリアアップにつながる個別育成計画の策定に期待したい
	内容	サービス向上には人材育成が必要不可欠として、各種内外の研修に参加させるとともに、事業計画に職員個々の育成計画とキャリアアップの取り組みを強化する必要がある。新任職員の育成計画も含め検討することを明示している。また、職員からも個別育成計画の策定を求める意見が寄せられている。個別研修策定の前提となる各職員に必要なとされるスキルを施設長と確認するための面談方法について検討を重ねている。面接結果が職員のキャリアアップに連動する個別育成計画の策定とそれに基づく実施及びその成果を確認するしくみの構築に期待したい。
3	タイトル	利用者への通院支援や服薬支援の方法についてさらに検討し、体制を整備していくことが望まれる
	内容	現在、利用者の体調不良等で通院が必要と判断した場合には看護師や援助員が利用者につき添って車で通院を支援するケースが増加傾向となっている。利用者の満足度は高い一方、遠方の病院に通院する場合に約半日の時間を要するために勤務時間と通院支援との調整が難しいことや、通院の判断が難しい状況がみられる。また、服薬管理についても配薬マニュアルに基づき取り組んでいるものの誤薬が発生している。今後は利用者の健康維持を図るため、通院の判断基準を明確にしたり配薬マニュアルを見直す等、体制を整備していくことが望まれる。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	利用者一人ひとりの意向や生活状況を踏まえ、柔軟な利用環境の整備を図ることが生産性、モチベーションの向上に役立っている
	内容	今年度、作業時間における柔軟な利用者支援体制の充実を重点運営方針に掲げ、利用者一人ひとりの生活環境及び家庭状況等に応じて、通所や退勤をはじめ休憩時間の間隔調整を行う等、柔軟に対応している。例えば、通院後の出勤や、早退後の通院等、個別事情に応じて日や週、月間で調整が図れ、利用者からも働きやすさへの声があがっている。利用者は意向が尊重され、自分自身で決めた時間で作業に取り組めるため、生産性の向上と、精度の高い品質が保持されるとともに、それが成果として工賃にも反映し、モチベーション向上にも役立っている。
2	タイトル	利用者の就労及び訓練の環境を整備することによって、高工賃の安定的な支給や利用者が希望する就労への移行実績につなげている
	内容	「働く喜びをすべての人に」という事業所の基本方針の実現に向け、就労継続支援B型事業においては、長期にわたり大手企業からの受注に関して、納期厳守や良好な品質の納品によって信頼関係を維持している。また、就労移行支援事業では、利用者意向をはじめ、個々の特性に応じた訓練内容を検討・工夫して選択の幅を広げている。さらに、外部講師によるパソコン講習の新規プログラムを新たに設定している。両事業とも利用者の就労及び訓練の環境を整備することによって、高工賃の安定的な支給や利用者が希望する就労への移行実績につなげている。
3	タイトル	トータルリスク委員会を設置し、ヒヤリハット報告や苦情などの事例の検討を行い安全対策のさらなる充実を図っている
	内容	これまで単独で構成されていた虐待防止とリスクマネジメント、苦情解決の3つの委員会を今年度からトータルリスク委員会として一括して毎月開催するように改めて実施している。職員の対応もリスクと捉えて利用者家族から寄せられた苦情事例を取り上げて職員全体で検討する取り組みに加え、支援ソフトに入力されたヒヤリハットや事故報告書の事例をプロジェクターを使用して会議室に映し出して検証して対策を講じる等、安全面に配慮した支援の充実にも努めている。ヒヤリハット件数も支援ソフトの導入により入力しやすくなり増加傾向となっている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	研修受講の成果や情報共有が支援における実効性の面では十分とはいえない状況もうかがえることから、さらなる取り組みが望まれる
	内容	事業所は、地域の支援機関との連携の充実によって、幅広い障害特性の利用者を受け入れている。それぞれ個別に理解を図るため、コミュニケーション方法や障害特性に関する研修の充実と、利用者一人ひとりの情報を共有するためのフロアミーティング、連絡会等の機会を設けている。こうした取り組みにより、利用者からは丁寧な対応をしてもらっている等の意見があがる一方で、職員の自分への理解がすすんでいないと感じる利用者がある等、支援における実効性の面では十分とはいえない状況もうかがえることから、さらなる取り組みが望まれる。
2	タイトル	利用者から日頃寄せられる意見や要望を把握してフィードバックするしくみの充実が期待される
	内容	日頃の支援場面で利用者から寄せられる意向は個別に職員が対応するように努めている一方、今回の利用者調査結果では、何を言っても変わらないといった趣旨の意見が複数の利用者から寄せられている。この結果が出た理由の一つとして事業所としての回答をフィードバックしていないことが考えられるので具体的な方法を確立されたい。また、食堂の入口にある意見箱を機能させていくことや、第三者委員と利用者が直接話す機会を持つこと、対話の集いで利用者から出された意見を細やかに記録して検討する等、現在のしくみのさらなる充実が期待される。
3	タイトル	会議録のとりまとめ方法や重要案件の周知方法を工夫し、職員全体の一体感を高めていくことに努められたい
	内容	月1回の職員会議や日々の朝礼等の機会に重要な案件を直接職員に伝達して情報共有を図り、一体的な運営を目指している。職員会議録等に重要な決定事項等が記録されているが、決定までの検討プロセスまで十分残されていない点は改善が望まれる。今後は会議録の作成方法をさらに工夫して標準化を図るとともに、職員会議を欠席した職員や非常勤職員との情報共有を深めるために有効活用していくことに努められたい。また、支援ソフトにある掲示板機能を情報共有の手段の一つとして充実させていくことも期待される。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	事業所トータルの安全衛生計画を策定し職員の意識の高揚を促している
	内容	利用者の安全確保については、衛生、感染症対策、褥瘡予防、医療的ケアなどの各種の委員会において事例を検討し、事故防止・感染予防対策に努めている。また、毎月、防災訓練を実施して職員の注意喚起を促している。さらに、事業計画書には安全衛生計画の基本方針、目標、取り組み項目などを年間スケジュールに落とし込み、さらに実施上の留意点なども明示して、職員の意識の高揚につなげている。事業報告においても同様に実績を総括する流れとしており、適切なマネジメントシステムになっていることがうかがえる。
2	タイトル	稼働率を上げるための工夫・努力をしている
	内容	入所申し込み書は施設へ直接提出するシステムになっている。現在約200名の待機者がいるが、介護保険改訂後減少傾向にある。年度末には市へ待機者状況を報告しており、東大和市、新宿区からの利用者も受け付けている。年4回、入所検討委員会が開催され、待機者リストの情報を整理している。昨年度の稼働率は特養、ショート空床利用を含めて、95.2%である。入所までの期間は1週間を目標とし、現在1～2週間で入所できるように努めている。さらにショートステイの利用率を上げることで稼働率アップが期待される。
3	タイトル	各委員会活動が活発におこなわれることで業務改善に繋がっている
	内容	月1回、各部署の主任・副主任が参加するサービス検討会ではサービス全般に関する討議や調整が行われている。リスクマネジメント委員会へはリーダー格の職員が参加し、虐待防止や身体拘束廃止への取り組みを検討している。一般職員は排泄委員会、入浴委員会、給食委員会などの各種委員会のいずれかに参加し、業務改善に取り組んでいる。内部研修は2か月に1回行われている研修委員会で、職員が日頃の業務の中で不安に思っている事柄について取り上げ研修を行っている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	利用者の楽しめる機会を充実させることを目指している
	内容	利用者一人ひとり自立支援を達成するために、「できること」や「生きる意欲」に着目して、日々のサービスを提供することを心がけている。利用者一人ひとりが楽しみながら生活ができるように、納涼祭や敬老会などの行事をはじめクラブ活動、外出支援などの機会を設けている。それらの楽しめる機会はボランティアの支援を受け、地域で生活しているという実感を持ってもらえるようにしている。「その人らしく豊かに生活する」ことを大切にしているが、活動回数などはさらに充実させることを目指している。
2	タイトル	情報共有について全職員へ周知させる方法を検討することが望まれる
	内容	朝、夕の申し送りは介護日誌を中心に伝達されており、連絡事項、各会議議事録など周知する必要のあるものをミーティングノートに記載し、職員間の情報共有に努めている。記録はすべてが手書きであり、業務の効率化を考慮すると、今後パソコンソフト導入について検討されることが望まれる。また、ケース記録(日々の記録)が事実の列挙のみでなく、ケアプランに基づいてどうであったかという様子が記載されていないため、様子観察を主とした内容を検討することが望まれる。
3	タイトル	利用者の尊厳の尊重は事業計画においても重要テーマとしている
	内容	法人として倫理規定を定めており、入職時のオリエンテーションや研修で伝え周知に努めている。ただし、昨年度は保険者に通報する虐待に類似する事例が3件発生している。また、今回行った利用者調査の「職員の態度、言葉遣い、服装は適切か」の設問に関しては50%の満足度に留まっていた。さらに、職員自己評価の自由意見欄にも、「言葉遣いに気をつける必要がある」、「職員同士で注意できる環境にしていきたい」などの声も聞かれている。尊厳の尊重に関する事業所内研修などを開催し、職員の意識を高揚させることが必要とされる。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	生活習慣などを考慮した支援を心がけている
	内容	自宅での生活スタイルができる限り継続できるように、生活状況をはじめ身体機能の把握を大切にしている。自宅と異なる環境での生活を鑑み、嗜好品をはじめ希望によっては自宅で行っていた趣味活動も原則継続できるような支援に努めている。また、身の回りの生活用品などの持ち込みにも対応しており、生活習慣に配慮した支援が実施されている。食事や入浴など決まった時間以外はフロアにおいて自由に生活したり、居室のベッドで横になったりなど、その人らしく生活してもらえるようにしている。
2	タイトル	受け付けには迅速に対応し家族の利便性に配慮している
	内容	申し込みは電話で受け付け、その場で回答することを原則としている。利用が確定した際には、担当のケアマネジャーと連絡を取り合い詳しい利用者情報の収集に努めている。リピート利用者に関しては、前回のデータをもとに電話連絡で確認し、利用手続きを開始している。利用者の多くは地域の居宅介護支援事業所からの依頼が中心になっている。なお、申し込みを受けた際には迅速に回答することに努め、さらにキャンセル待ちなども受け付け、利便性を高めることを心がけている。
3	タイトル	各委員会活動が活発におこなわれることで業務改善に繋がっている
	内容	月1回、各部署の主任・副主任が参加するサービス検討会ではサービス全般に関する討議や調整が行われている。リスクマネジメント委員会へはリーダー格の職員が参加し、虐待防止や身体拘束廃止への取り組みを検討している。一般職員は排泄委員会、入浴委員会、給食委員会などの各種委員会のいずれかに参加し、業務改善に取り組んでいる。内部研修は2ヶ月に1回行われている研修委員会で、職員が日頃の業務の中で不安に思っている事柄(口腔ケア、感染症、リスクマネジメント)について取り上げ研修を行っている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	利用者が楽しめる行事や活動を実施することが望まれる
	内容	定期的に行われているレクリエーションとして、誕生日会、習字クラブ、お花クラブを開催しており、クラブは各週火曜日の午前、午後に開催している。それぞれ1回あたり、15名から20名の参加者があり盛況になっていることがうかがえる。また、利用者参加型のレクリエーションは、2種類のクラブ活動に加え、ボランティア主導によるカラオケや折り紙しかないことが懸念される。利用者調査の「楽しみにしている行事や活動はあるか」の設問に関しては、さらに高い満足度が期待される結果であった。
2	タイトル	退所時のサマリーは自宅での介護に役立っているかを検証することが望まれる
	内容	事業所全体で行なう申し送りをはじめ、フロアにおいて朝夕2回の申し送りによって利用者情報の共有化に取り組んでいる。フロア別に業務日誌を設けており、特記事項などについては書式を用いて伝えることを取り決めている。利用者に関する情報は、各職種が個人別経過記録に転記され、タイムリーに閲覧することができる。利用期間中の情報は退所時に家族に渡されているが、担当のケアマネジャーへの情報提供も含め、質や量などが自宅での介護に役立っているかを検証することが望まれる。
3	タイトル	様々な機会を通じて家族での情報提供を充実することが望まれる
	内容	今回行った利用者調査の総合的な満足度は、「大変満足」または「満足」が83.4%、「どちらともいえない」は8.3%、「無回答」が8.3%であった。全体としては大変高い満足度であった。また個別の15設問中満足度が70%以上の満足度は得られていたのは9設問に及んでおり、事業所の真摯な対応が評価を得ることがうかがえる。ただし、いくつかの設問に関しては、半数以下の満足度に留まっていることも見受けられた。回答者の約7割が家族であることを踏まえ、家族へ適切に情報を提供することが望まれる。

No.		特に良いと思う点
1	タイトル	利用者一人ひとりが自分のペースで過ごせるようにしている
	内容	各種のプログラムへの参加は利用者の意向を原則としており、個人の意思を尊重した支援に努めている。機能訓練の要素を取り入れたみんなで行う体操などは、できる限り参加を促がしているが、個別のプログラムについてはその都度参加を確認することを取り決めている。介護場面を観察した際にも、「数合わせや絵合わせパズル」、「ぬり絵」、「利用者同士の会話」、「リハビリ」、「休憩」などが適切に選択できる様子が確認できている。また、脳の活性化につながる脳トレ(シナプソロジー)をレクリエーションに取り入れている。
2	タイトル	定例のケア会議においてモニタリングを行い、短期目標の達成状況を確認している
	内容	通所介護計画は「意向や留意事項」、「長期・短期の目標」、「サービス援助内容」、「援助計画」などが詳しく掲載できる書式になっており、利用者一人ひとりの支援の方向性が読み取れる内容にまとめられている。定例のケア会議においてモニタリングを行い、短期目標の達成状況の確認を行うことを取り決めている。アセスメントの見直しを行ないながら計画の変更や更新を行う流れも定着している。利用者や家族からは、その都度意向や要望を把握して確認を得ることにも取り組んでいる。
3	タイトル	運動系や脳トレ系のプログラムを日々実施して心身機能の活性化に力を入れている
	内容	楽しみながら心身の活性化を図る様々なプログラムを用意し、利用者の意向を把握して適切に組み入れている。午前のプログラムで行われている「集団体操」をはじめ、パットゴルフ、ボーリング、お手玉投げ(ドラドラポン)など体を動かす各種の運動系のプログラムや、「パズル」や「ぬり絵」などの脳トレ系のプログラムを日々実施している。また、外部から専門の講師を招聘して実施している「書道」は利用者からも高い評価を得ている。利用者調査の「事業所での活動やリハビリは自宅での生活に役立つか？」の設問に関しても高い満足度が得られている。
No.		さらなる改善が望まれる点
1	タイトル	情報提供の「質と内容」を見直すことが期待される
	内容	見学や問い合わせには相談員を窓口としていつでも対応することを原則としている。家族やケアマネジャーとの同行や、数時間一緒に過ごしてもらうことにも対応しており、雰囲気を含んでもらうことを大切にしている。利用率については前年度と比べ概ね同様(60~65%)、登録者数についてはも概ね昨年同様になっている。地域や居宅介護支援事業所への必要とする情報提供についてはさらに「事業所の特長を分かりやすく伝える」ことが望まれる。事業所一丸となって情報提供の仕組みを見直すことが期待される。
2	タイトル	事業所到着後や帰宅前の時間の過ごし方は、さらに配慮することが望まれる
	内容	送迎車両3台で2~3往復の送迎のため、朝のプログラム開始まで約1時間程度の到着に幅がある。そのため、バイタルサインチェック後は、パズル、ぬり絵、脳トレ、テレビを勧めたり、あるいは職員が間に入って利用者同士が会話できるようにつないだり、入浴やリハビリを提供して過ごしてもらうようにしている。帰宅時のバス便が開始するまでの時間帯は、カラオケ、適宜の休憩などを行っている。ただし、施設見学を行った際には、手持無沙汰の利用者も見受けられたため、この時間帯の過ごし方をさらに検討することが望まれる。
3	タイトル	事故等の報告や再発防止策の検討についての仕組みを検証されたい
	内容	「事故」や「ヒヤリハット」については報告書をまとめ、複合施設全体で開催されているリスク委員会で報告されている。本年3~7月期においては、事項(軽度)21件、ヒヤリハット24件、気づきメモ7件が提出されているが、ヒヤリハット報告書の提出割合が少ないことが懸念される。再発防止策についても効果が出たことを確認し終了する「リスクマネジメント」や「クライシスマネジメント」の考え方を導入することが望まれる。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	尊厳の尊重については利用者からも高い満足度が得られている
	内容	事業所では「ほんちようケアセンター行動規範」、「同倫理綱領」などを設けており、入職時の説明をはじめ職員会議などの機会を通じて職員相互に確認し合うことにしている。さらに、年間研修計画には接遇とサービスマナーの研修を設定して実施している。今回行った利用者調査の「ヘルパーの態度や言葉遣い、服装は適切か」、「プライバシーに配慮されているか」、「職員は気持ちを大切にしてくれるか」などの尊厳の尊重に関する各設問は高い満足度が得られていた。職員研修などの取り組みが成果を得ていることがうかがえる。
2	タイトル	提供しているサービスは3か月毎にモニタリングされ次の計画に生かされている
	内容	訪問介護計画書は、「本人・家族の意向」、「長期・短期の目標」、「サービス内容」、「曜日・時間帯」、「担当者」などが明示され、分かりやすい書式になっている。計画書を作成する際には「目標設定」を利用者、家族、ケアマネジャーに確認し、必要に応じて都度変更することになっている。モニタリングは、3か月ごとに「訪問介護 サービス評価・モニタリング報告」によって行なっている。また、介護記録は具体的なサービス内容がチェックできる3枚綴りの書式になっており、自宅、事業所、ヘルパー、それぞれが保管できるようになっている。
3	タイトル	地域の関係先にも「空き情報」を適宜提供して地域密着型の支援を提供している
	内容	事業所は約10件の地域の居宅介護支援事業所からの紹介を受けて訪問介護を実施しており、毎月の実績報告は事業所を訪問して手渡しでするとともに「空き情報」も提供している。さらに、医療機関やスーパーなどには、「活動に空きがあります」と題したチラシを配布して利用者の紹介を受け、地域に密着した介護支援に取り組んでいる。サービスの利用希望に関しては、利用者の特性や周辺生活の事情を踏まえ、ケアマネジャーと連携しながらサービスの開始にあたっている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	できる限り地域の利用者ニーズに対応することを目指している
	内容	現在8名（常勤者1名、非常勤者7名）の職員体制であり、職員を調整をしたり、サービスの内容を調整して、できるだけ訪問ニーズに対応することに努めている。問い合わせがあった場合には、サービス利用時間帯、利用希望の理由等を把握し、利用者の詳しい情報を収集するようにしている。事業特性からも、利用希望者は必然的に受けることにしているが、サービス内容によっては職員の適性や数などによって、受けられない状況も余儀なくされている。職員の増員計画の取り組み、できる限り地域のニーズに対応することを目指している。
2	タイトル	災害対策に関する情報提供などの仕組みを標準化することが望まれる
	内容	事業所では訪問時に様々な災害が発生する可能性を想定して「緊急時対応マニュアル」を全ヘルパーに配布して注意喚起を促している。A4版2枚の書式になっており大きめの文字で分かりやすさも工夫している。内容としても、「緊急時の連絡先を」を巻頭に明記し、「病気や怪我」、「利用者不在・応答がない場合」、「移動中の事故」、「活動中の事故」、「急病によるヘルパー自身の休み」、「地震・災害」の個別対応を示唆している。さらに、ケアマネジャーとの役割分担を定め、災害対策に関する情報提供などの仕組みを標準化することが望まれる。
3	タイトル	中長期計画達成のための具体的なプログラム作りが期待される
	内容	ほんちようケアセンターとしての中長期事業計画を策定しており、中核3事業の方向性を示唆している。中期としては「経営の安定」、「法令順守」、「人づくり」、「技術向上」を具体的な取り組みを明示している。さらに長期として「安定した財務基盤の確立」、「従業員の満足度の向上」、「スーパーバイズ機能の活用によるサービスの向上」、「地域における助け合いの仕組み作り」を掲げている。長期計画についても中期同様に具体的なプログラムを明示して「達成する意気込み」を明示することが望まれる。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	「静」と「動」を織り交ぜて、保育目標の「たくましく」とは何か？と振り返りも行い、目指す保育を共有して取り組んでいます
	内容	当園の保育は、成長してほしい子どもの姿を描き、保育課程をもとに年間カリキュラム、月案、週案、個別配慮へのつながりを持って組み立てられています。薄着保育や素足で過ごすこと、毎月の健康体育など体力づくりの時間もあります。また、わらべうたを0歳児から導入しふれあい、情緒を育てています。戸外遊びや散歩、園庭での築山での遊びなどで体を動かし、手先の遊び、折り紙や絵などで発達を促しています。「静」と「動」を織り交ぜて、保育目標の「たくましく」とは何か？と振り返りも行い、目指す保育を共有して取り組んでいます。
2	タイトル	各年齢で力を合わせて集団で遊ぶ楽しさと、子ども一人ひとりが自己表現や話し合う経験が積み重ねられています
	内容	職員との信頼関係を0歳児から築き、「やってみたいこと」を伝えられるようになったり、活動の意欲や自信につながっています。お泊り保育、あらうままつり、運動会での太鼓や5歳児の劇遊び、つぼみ劇場などの行事では職員と子どもと一緒に練習を重ね、発表の場を楽しんでいます。各年齢で力を合わせて集団で遊ぶ楽しさを経験しています。集団に入れずにいる子どもも、その場にいるだけでも参加していることにつながることや、異年齢保育を通して小集団の中での育ちを育むなど、子ども一人ひとりが自己表現や話し合う経験が積み重ねられています。
3	タイトル	受け入れる背景は様々でも、当園に通う子どもに違いはなく、当園の保育を提供できるよう取り組んでいます
	内容	「保育を必要とするすべての子どもたち一人ひとりを大切に、生きる力を育てていきます。」と掲げた当園の運営理念の実現に向け、当園は市内の保育園で初めて障がい児を受け入れたという歴史を現在も変わらず、園の使命として取り組んでいます。障がい児の受入は各クラス保育の中での実践だけではなく、一時保育事業において行われています。また、関係機関と連携を図り養育困難家庭等の受入やレスパイト的な一時保育の利用など、受け入れる背景は様々でも、当園に通う子どもに違いはなく、当園の保育を提供できるよう取り組んでいます。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	一時保育事業に対する職員の捉え方については共通理解を深めていくための工夫が期待されます
	内容	一時保育事業はセーフティネットの面も持ち合わせていると捉え、育児で悩む家庭もあるはずなので、保護者のリフレッシュでも利用してくださいと地域の方々に発信しています。そのため、他の保育園では利用できない場合でも、当園では受け入れていることで、地域ニーズに応えた運営が行われています。「地域に根ざした子育ての発信基地として保育を実践していきます。」という運営理念への取り組みと推察されますが、一時保育事業に対する職員の捉え方については共通理解を深めていくための工夫は必要と見受けられます。今後の取り組みが期待されます。
2	タイトル	SNSの使用に対して職員、保護者、双方が共通理解と認識のもと適切に活用ができるようルールなどの整備が期待されます
	内容	ホームページ上に「プライバシーポリシー」掲載し、法人としての個人情報保護に関する取り組みを発信しています。また、個人情報保護に関するお問い合わせ窓口は当園では主任保育士が任命されています。個人情報保護については職員は採用時研修等にて、保護者に対しては入園説明会や重要事項説明書に掲載し、周知を図っています。情報を取り巻く環境の変化は著しく、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)の使用に対して職員だけではなく、保護者も共通理解と認識のもと適切に活用ができるようルールなどの整備が期待されます。
3	タイトル	職員全員が共有しやすく活用できる「保育クレド」となるよう、改めて見直すことも期待されます
	内容	当園には、園の基本理念、保育方針、保育の内容と特色、職員の心得、リスクマネジメント、保育基礎のポイントなどを盛り込んだ、「保育クレド」があります。当園の職員として実践すべき重要な事柄を網羅し、正規職員に配布していますが、活用しきれていない現状があります。作成時から年月が経ち、「子ども・子育て新制度」も打ち出され、園の現状と照らし合わせて改めて「保育クレド」の内容を確認し合う機会も必要と推察されます。職員全員が共有しやすく活用できる「保育クレド」について見直すことも期待されます。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	日本の伝統を大切にしたり行事食や子どもたちが喜ぶ誕生日メニューなど、食事への取り組みが充実しています。
	内容	誕生日にはバイキング形式の食事の提供や、ホールの手作りケーキの演出など、子どもたちが喜ぶ工夫がなされています。日本伝統の年中行事や季節を感じる献立も大切にしています。調理室と併設されているランチルームがあり、調理している人の顔が見え、とても恵まれている環境です。おかわりも用意されており、子どもたちは自分で食べる量を考えておかわりをしていました。アレルギー食のおかわりもきちんと用意されていました。野菜の栽培や調理保育も実施していますが、震災に備えてカマドを使った「炊き出し」の取り組みもなっています。
2	タイトル	安全確保やサービス向上に向け、保護者と園、職場内(職員間)ともに、情報共有・コミュニケーションが組織風土として根付いています
	内容	保護者等への情報は、毎月の園だより、クラスだより、連絡帳、クラス掲示板、送り迎えの際の声かけで日常的に発信されています。さらに、クラス懇談会(2~3回/年)、保護者会(2ヶ月に1回)を通じて、相互コミュニケーションもあります。職場内では雇用形態に関わらず職員会議(週1回、全体会議は月1回)、パート職員の会議も年3回実施しています。さらに、個人ごとには毎年、職員意向調査と年3回の個人面談も行われています。苦情解決や対応の速さ・徹底度は、園の組織的なコミュニケーション力向上の仕組みが背景にあると考えられます。
3	タイトル	地域活動・連携への参画を通じて、園の専門機能を地域に反映する機会が増加し、範囲も広がっています
	内容	地域の団体との連携については、地域の防災協力を行う応援協定連絡会議等がありましたが、一昨年から、当該西部エリアにおけるネットワーク会議(参加者:保育所・幼稚園、図書館、児童館の管理者、及び民生委員)への参画(4回/年)に加えて、今年度からは、近隣(南台地区)の小・中高等学校、幼稚園・保育園の連携会議に参画しています。参加・活動を通じて、地域からの情報収集のチャンネルが増えると共に、より広域なエリアで園の機能が活かされる機会が増え、他施設や園、学校との相乗効果による新たな地域貢献への形が見え始めています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	役職者の立ち位置や役割、また、園の職員として、法人内一職員としての役割を整理した中で新体制を確立していくことが期待されます
	内容	園長、主任の交代、職員異動、退職と、職員体制が不安定であったここ数年は組織内と保育の安定を図ることに注力してきました。経営層が考える組織力向上への取り組みに対する職員の捉え方が一致してない部分も見受けられました。保護者への伝え方、行事の在り方、保育を進めていく上で大切にしていることは何か、など、改めて保育の方向性を確認しあい、また、それぞれの役職者に求められる役割や立ち位置、また、園の職員として、法人内一職員としての役割を整理した中で新体制を確立していくことが期待されます。
2	タイトル	全職員で全園児を保育することを深めるためにも計画や記録の集約の仕方について、工夫することが期待されます
	内容	保育課程を基に各クラスの年間指導計画が作成されていますが、他のクラスの年間指導計画の内容を確認し合う機会が設けられておらず、年間指導計画から月案につなげる際、ねらいがしぼりづらいという課題に取り組んでいますが、月案、週案も別々にファイルされているため、つながりを確認しにくい状況にあります。また、乳児の個別記録も月ごとに一人ひとり記載する様式のため、年間を通しての子どもの姿を捉えにくい状況にあります。全職員で全園児を保育することを深めるためにも計画や記録の集約の仕方について、工夫することが期待されます。
3	タイトル	職員育成を進めながら、さらに職員同士がお互いを認め合い、高め合う職場風土を形成していくことも課題と推察されます
	内容	法人共通のキャリアパスがあり、職員の成長段階ごとに期待する人材像は明確になっていますが、採用の中心は新卒から中途採用へ移ってきており、今後、保育士のキャリアや保有する能力レベルの程度はさらに多様化・複雑化してきます。そのため、各自の能力に応じた処遇と育成と展開していくことが求められます。さらに当園が求める保育士としてのあるべき姿を示し、一つの「チーム」として様々な経験や価値観を持つ職員がお互いを認め合い、高め合う職場風土を形成していくことも課題と推察されます。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	高齢者施設との合築で、自然な世代間交流が行われています
	内容	高齢者施設との合築であることを強みとし、ケアセンターの方々と園児は日常的に交流を持ち、年中行事と一緒に楽しんでいます。普段から異年齢保育を通して思いやりや助け合いの心を育てている子どもたちですが、この高齢者との交流も子どもたちの人間関係を豊かなものにしていきます。多くの人から愛され、認められることで、子どもたちの自己肯定感が育まれています。さらなる世代間交流の充実に向け、ケアセンターとの定期的な合同会議や職員の交換実習を実施しています。
2	タイトル	近隣の公共施設を有効利用し、子どもたちの経験を豊かにしています
	内容	園の周辺には、警察署や消防署、図書館などの公共施設がたくさんあります。散歩の際に、消防車を見て消防士に挨拶をする乳児の子どもたちの姿が見られました。幼児クラスの活動を見ると、「分からないことは自分たちで調べる」という習慣が身に付いているようで、年長児が図書館に行って調べ物をするのがとても自然に行なわれていました。また、積極的に園の外へ出て、花屋や材木店等の商店に質問や相談に行くことも多いようです。地域の資源を活用し、地域の方々に見守られながら育つ子どもたちの生活はとても豊かなものであると言えます。
3	タイトル	全職員参加による園のクレドをまとめ、唱和や携帯を始める等の取り組みの結果、保育理念の理解浸透に繋がっています
	内容	法人理念、保育園の理念は掲示等で、保育目標の「たくましく」は園だよりのタイトルとして、毎月の園の取り組みとともに伝えていきます。職員としてのあるべき姿は「ほんちよう保育園 倫理綱領」にて示してきましたが、今年度、職員の立ち返る場所をより明確に示すべく、職員全体で園の「クレド」を作成しました。言葉やデザインなどすべて職員が協働して作成したことによる一体感の醸成や、保育理念の理解浸透につながる取り組みと推察されます。クレドは職員がいつも携帯できるサイズで作られ、今後、保護者等にも広く発信していく予定です。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	クラスの枠を超えた連携や、保育のひろがり期待されます
	内容	2歳児のクラスで保育課程における2歳児の成長や発達を目で見て分かるように写真付きのパネルを製作したところ、保護者に好評でした。クラス単位で行なっている保育を園内で発信し合い、良い取り組みは積極的に取り入れ、さらに深めていく環境が望まれます。今年度後半に、各クラスの実践発表が行われる予定とのことで、今後も継続して取り組むことが期待されます。職員の配置などに関しても、クラスの枠を超えて協力しあうことが出来るとクラス担当の負担が軽減すると見受けられます。
2	タイトル	事業計画書の分かりやすさが期待されます
	内容	園長からメッセージを発信し、又、職員自らが情報を集めるなどの風土が出来つつあり、事業計画書に盛り込まれているメッセージ(職員に期待される事)も多くなってきました。事業計画書は、園を取り巻く環境を分析された大事なもので、保育園に期待されている事等のメッセージがいっぱい詰まっています。ただ、職員の理解や納得感が追い付いているかどうかの確認は必要と思われます。事業計画書の内容理解を深める機会、若手職員にも理解が深まるようなわかりやすさが期待されます。
3	タイトル	職員の「気づき」や自己チェック、話し合いの結果など、継続した取り組みをより活かせるよう検証することが期待されます
	内容	虐待防止についてはチェックリスト等を用いての自己チェックや、不適切な対応についてはクラスでの話し合い、ヒヤリハットは「ヒヤリハット・気づきメモ」を日誌に綴じて職員が確認できるようにしており、リスクマネジメント委員会にて検証することとしています。これら、気づき等を基に実施した内容は適切であったかどうかの検証までには至っておらず、改善の余地があります。継続した取り組みを活かすために一歩進んだ取り組みが期待されます。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	小規模園の利点を生かして、一人の子どもの成長を職員全員で見守っていく温かい雰囲気があります
	内容	園舎は大きくなく、築年数も経っている為に設備は整っているとは言い難いが、きちんと整頓され清潔感があります。中庭は広々としたウッドデッキになっていて、0・1歳児が安心して探索行動ができるスペースです。その様子は共有スペースからも覗くことが出来、小規模園らしく家庭的な雰囲気が感じられます。大型絵本やペーパーサートは、使いたい時に取り出しやすいように収納され、日々の保育の中でも大切にされている事が伝わってきます。現存の空間をより有効に使う工夫が随所に感じられ、環境を大切にしたい保育がなされていることがよくわかります。
2	タイトル	日々の中で、異年齢での関りがあり自然と思いやりの心が育まれるような保育が展開されています
	内容	年間を通して異年齢での活動をしています。一緒に過ごす中で、年齢の違いを感じて思いやりの気持ちや憧れる気持ちが芽生えていきます。運動会では、縦割りのチームでの競技やリズムがプログラムにあり普段のふれあいの様子が家庭にも存分に見てもらえる内容に考えられています。また、年長児のリーダー活動では乳児クラスの玩具をきれいにしたり、朝夕の遊びや雨の日のホール遊び等でも自然と一緒に過ごす事も多くある等、親しみが持ちやすい環境づくりがなされていることも大きなきっかけと考えられます。
3	タイトル	「保育を必要とする全ての子どもたち一人ひとりを大切に、生きる力を育てていきます」を使命とし、子どもの個性を支援しています
	内容	当法人の理念は、「保育を必要とする全ての子どもたち一人ひとりを大切に、生きる力を育てていきます」と掲げています。当法人は、これまでの歴史の中で障がい児保育に力を入れて取り組んでおり、障がいを持っていても「生きる力」を育てられるよう、受け入れて保育していくことを使命として積極的に取り組んでいます。子どもの個性を理解し、他の子どもと一緒に成長していく姿を支援していることで、子ども同士も思いやりの気持ちが生まれ、助け合い、認め合う姿がありました。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	プライバシーに配慮した支援だけでなく、羞恥心を育てるような働きかけを保育の中で作り出すことが望めます
	内容	プール遊びの際の着替えでは、外部から裸が見られないように遮光カーテンをひき、シャワーを浴びるときにも工夫をしています。トイレは、設備が旧式のものでありながらつ立を取り付ける等の工夫がなされ、プライバシーの保護についての配慮が実施されています。環境面の整備には園全体で考え合っているが、日々の保育の中では窓の空いている部屋の中で臆することなく裸になって着替えている姿があります。環境を整えるだけでなく子ども自身と家庭に向けてもプライバシー保護についての意識を高める取り組みが期待されます。
2	タイトル	「地域に根ざした子育ての発信基地」となるべく当園をアピールしていくことが期待されます
	内容	4月からの運営開始に伴い、当園では月2回、「半日保育体験」を実施しました。公営の時に実施していた園庭開放にはあまり来園する家族がいなかったこともあり、まずは新たな当園の取り組みを知っていただけるよう在宅子育て家庭に向けた取り組みです。地域に向けた情報発信としては外の掲示板やホームページにてアナウンスしています。次の一歩として地域の在宅子育て家庭のニーズを掘り起こし、「地域に根ざした子育ての発信基地」となるべく当園をアピールしていくことが期待されます。
3	タイトル	職員がプロ意識を持ち行動できるよう現在の取り組みを継続していくことが期待されます
	内容	「豊かな人間性と保育の専門性を目指す研修計画」、「個別研修計画・評価シート」と、職員のスキルアップ、知識の習得につながるよう、研修目的を明確に示すことで意識を高めていくよう仕組みを構築している段階です。法人内異動、新人職員、公営から引き続きの非常勤職員と様々な背景を持ち共に仕事をすることになった職員集団であることから、保育観、組織人としての心得等、経営層は期待を込めて職員に伝えています。職員がプロ意識を持ち行動できるよう現在の取り組みを継続していくことが期待されます。